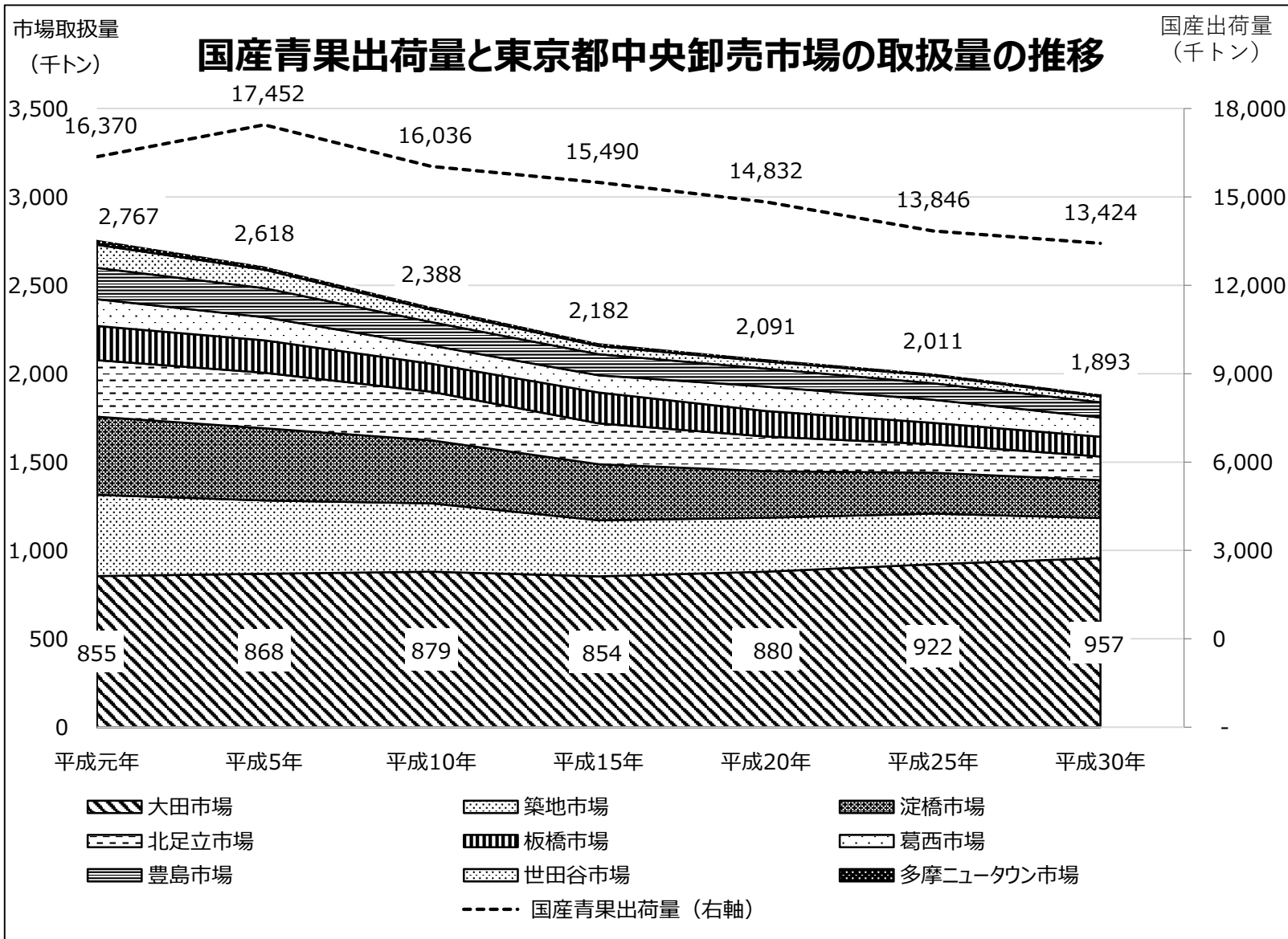


東京青果におけるパレット推進の取り組み状況と課題

令和2年11月30日

東京青果株式会社 経営戦略室 中村 岩生

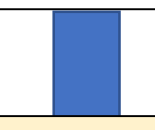
○物流改善に向けた取組みの背景



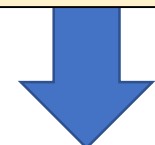
生産量・市場取扱量減少
一方で大田市場は増加



＜課題＞
 ・場内渋滞発生
 ・産地トラック長時間待機



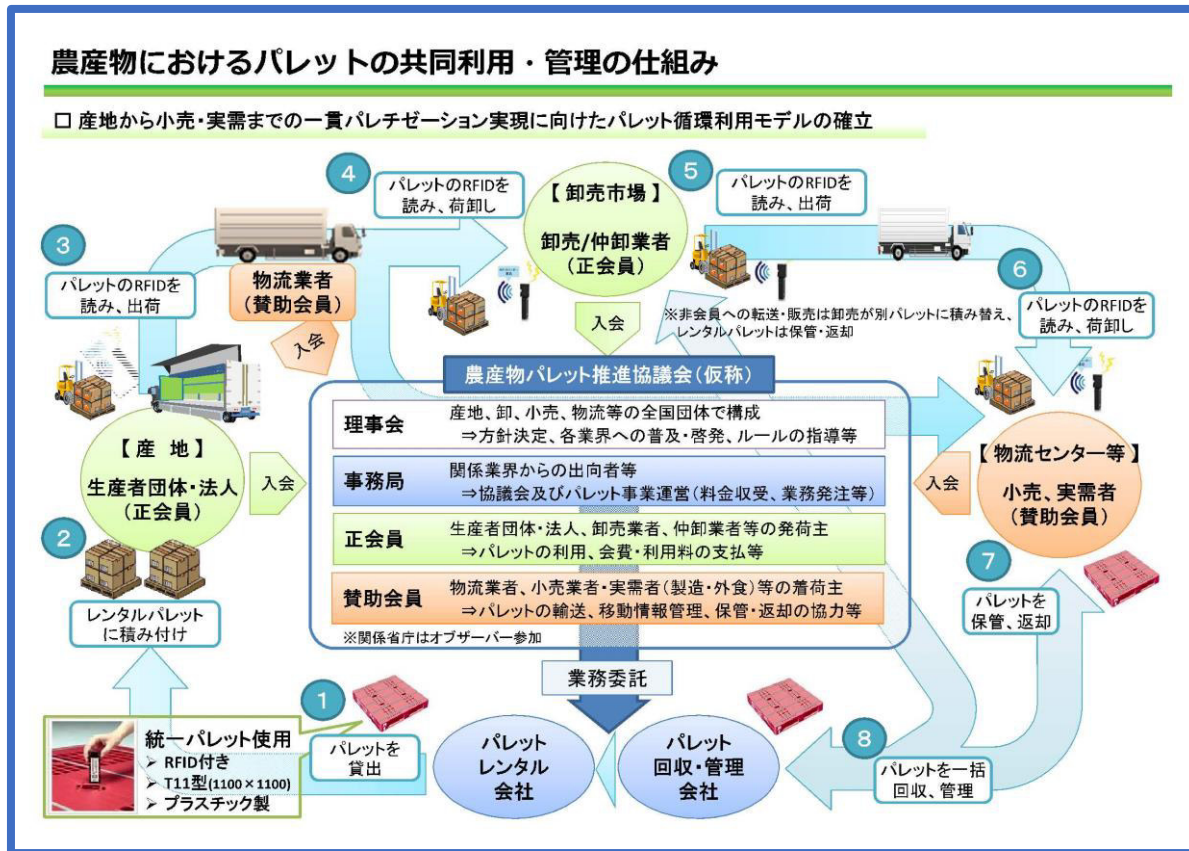
着荷主としての
物流改善の使命・必要性



＜対策＞
 ・パレット推進 (回収促進)
 ・荷降し予約システム導入

○パレット推進のに向けた取組み ～農産物パレット推進協議会の取組み～

2018年8月 JA全農、日本パレットレンタル（JPR）、東京青果が中心となり設立
 2018年～2019年度 14産地で約3万枚のパレット輸送実証試験を実施
 2020年10月末時点で 産地会員6社、レンタル業者5社、卸会員22社、計 56社



レンタル	JPR、三甲リース、UPR、NPP、イフコジャパン
産地	JA全農、ホクレン、全農長野
正会員 33社	卸売 全青協、札幌みらい、全農青果C、千住青果、シティ青果、新宿ベジフル、東京青果、荏原青果、多摩青果、横浜丸中、R&C、セントライ、名古屋青果、京果、大果大阪、大阪中央、東果大阪、福岡大同、熊本大同
運送	全日本トラック協会、全農物流
小売	全国スーパーマーケット協会
その他	JA三井リース、オリックス、レンゴー、岐阜プラスチック工業、パレネット、三菱商事プラスチック
利用者 会員10社	JAながの、JAえひめ物流、JAふくおか八女、東一宇都宮、奈良中央、奈良大果、トレード、関東機械センター、スミフル、豊田自動織機
賛助会員 10社	農林中金、サンインテルネット、ロジスネクスト東京、JL連合会、日本物流機器、住友商事ケミカル、JFEエンジニアリング、ティーネット、旭化成、DIC

○パレット推進のに向けた取組み ～課題と対策～

項目	課題	該当・対象者（※1）						今後のすすめ方	該当・対象者						
		サブ	産地	物流	大卸	仲卸	小売		サブ	産地	物流	大卸	仲卸	小売	
1	荷積み、輸送、荷降しにおける物理的課題	①出荷容器(DB・CT)が11型パレットに合わない ⇒積載効率の低下 ⇒DB箱などで下段に胴膨れ発生 ⇒荷崩れ防止作業や緩衝材等の費用発生		○	○	○		①パレット積載方法の検討 ・11型に合った出荷容器の開発 ・配付け・養生方法の検討 ・繰り返し使用可能な梱包資材・緩衝材等の検討		○	○	○			
		②集荷場設備（予冷库・ストレージ・積載場）が11型パレット運用に合わない ⇒別の場所で手作業による積替え発生		○	○	○		②集荷場設備の課題検討 ・パレタイザーの導入検討など		○	○	○			
		③少量他品目の商品や規格・等階級が細かいと、パレット荷降し後に仕分作業が発生する		○	○	○		③仕分省略方法の検討 ・パレット2段積み試験 ・棒積み運用の検討 ・規格の簡素化検討		○	○	○			
2	パレット回収体制	①市場内外における回収意識の不足				○	○	①回収依頼の徹底 ・市場別回収率の公表 ・協議会での巡回強化	○			○	○		
		②市場内でのパレット仕分・保管場所が不足				○	○	②パレットセンター設置にむけた検討	○			○	○		
		③各サプライヤーが卸に滞留状況を確認し配車				○	○	③共同回収による効率化検討	○			○	○		
3	RFID関連	①読取り作業が煩雑 ⇒別作業に対し現場で拒否反応が発生 ⇒市場での引渡し時の読取りがきわめて困難		○	○	○	○	①RFID読取り作業の省力化 ・ゲート型・フォーク型・アクティブ型などのメリット/デメリット検証・導入検討 ・RFIDを使わないで引渡し先を報告する運用を検討	○	○	○	○	○	○	○
		②RFIDデータの活用方法が見出せない ⇒流通過程で上の荷物が分かれるので末端までのトレーサビリティが確保できない ⇒読取り作業のメリットが見出せない		○	○	○	○	○	②RFIDデータ活用方法の研究	○	○	○	○	○	○
4	その他	①パレット運用の共通ルールが定まっていない	○	○	○	○	○	①共通ルールの策定	○	○	○	○	○	○	○
		②ルールを普及する為の共通システムもない	○	○	○	○	○	②共通システムの検討	○	○	○	○	○	○	○

※1 サブ：パレットサプライヤー、産地：J A・法人他、物流：物流・運送会社、大卸：青果卸売市場における大卸、仲卸：青果卸売市場における仲卸、小売：生協・量販店等

○パレット推進のに向けた取組み ～クランプ型フォークリフト導入による回収率改善～

動画発表

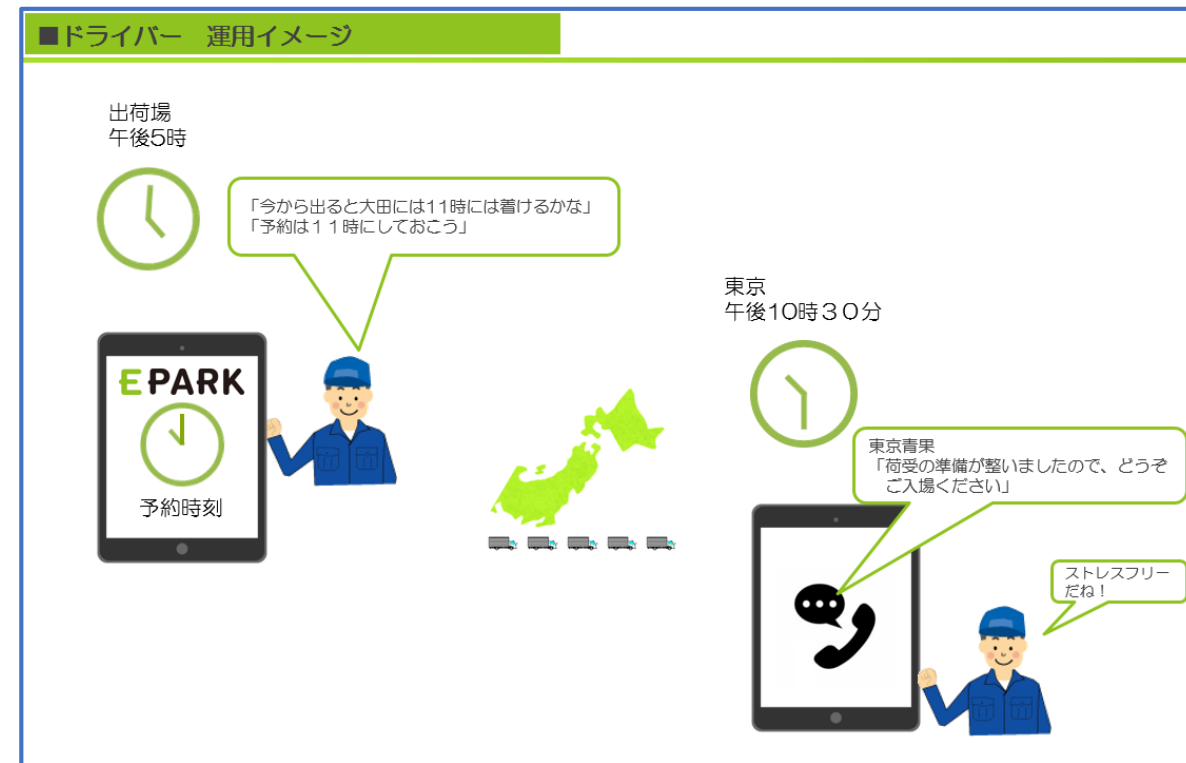
○荷降り時間予約システム（EPARK）

<目的>

- 大田市場内渋滞緩和（東京都メリット）
- 置場の最適レイアウト（東京青果メリット）
- ドライバーの計画的運行補助（運送業者メリット）

<システムの特徴>

- 分かりやすい操作性（レストラン予約と同じUI）
- 利用者側での登録のしやすさ（簡単）
- 予約者に課金されない料金体系
- 他業種のEPARK加盟店も同じIDで利用可能
- 1対多に対応しやすい仕組み（登録が簡単）



<実績値>

- 登録者数： 3,100名（2020年7月末時点）
- 予約数： 1日当りの平均予約数73台（2020年7月平均）⇒当日入荷量の40～50%程度
- リピート率： 11回以上利用した予約者は25%
- 予約時間から1時間以内での荷降案内率：果実91%、野菜86%